

令和 6 年 3 月 21 日 議会のあり方調査研究特別委員会議事録
13時00分 開会

○出席委員 (7 人)

委員長 寺岡 公章

副委員長 末広 天佑

委員 豊川 和也、山代 英資、小出 哲義、
小田上尚典、細川 雅子

議長 北地 範久

○欠席委員 岡 和明

○傍聴者 藤川 和弘

○寺岡委員長 定足数に達しておりますので、ただいまから議会のあり方調査研究特別委員会を開きます。

では、この会議の日程は政務活動費に関する調査研究となっておりますので、末広副委員長にチーフを務めていただきたいと思います。お願いします。

○末広副委員長 代わりまして、政務活動については、末広が進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いします。長丁場ですがお付き合いいただければと思います。

日程に従って政務活動費についてを引き続き議論を進めればと思っておりますが、最初に御説明をしておくところ等があります。まず前回ちょっと残った申合せ事項についてなんですが、こちらについては申合せ事項全体で判例とかの話が出てたと思うんですけど、これを今事務局に調べていただいているんですが、その資料がなかなか手に入らないこともあって、出てないんですね。ただ、市民オンブズマンの中で新しい判例があるようになって話もあり、ちょっと時間がかかりそうで、後回しにさせてください。報酬審議会をしていただくなら外部にお願いしなきゃいけないので、そちらの話を先にさせていただければと思います。

宿題でいただいていたお願いする文章に、目を通していただいたと思うんですけど。あとアンケートもまとめてサイドブックに掲載しています。協議資料の政務活動費のアンケートフォルダに今回のアンケートのまとめが掲載されてますので、そこを見ていただければと思います。

委員長。

○寺岡委員長 これまで委員の皆さんで協力し合いながら、ここまで一応調査はしてきました。数字も我々の中では出ているところなんですが、今後外部に対して議会として、報酬審議会設置の依頼をしていかなければなりません。その役は議長にお引き受けいただくことになりますので、議長にここまでのチーフが中心となってくつくれた資料であるとか、流れについて何か所感があれば伺っておいていいタイミングかなと思いますので、お願いしてはいかがでしょうか。

○末広副委員長 それでは議長、お願いいたします。

○北地議長　今までこの会議に参加して、いろいろ皆さんのお話聞かせていただいて、最終的に報酬審議会開くかどうかというような話にはなってはきていると思うんですけど、1点ちょっと心配なのが、この増額の金額、あるいはその根拠、そこがちょっと弱いかなというのがあります。希望的な金額は出とるんですけども、例えば増額したよ、けど執行率は伸びないよというんじゃないかなと困るわけですね。皆さんが全額使ってまだまだ足りないよぐらいになってくれば一番いいんですけども、そこまでいくのかなというのが一番心配なところですよ。

今まで皆さん使われてきて、額が少ないから行きたくても行けなかったよとかいうようなアンケートの御意見もございましたけども、その辺も含めて何で増やさないけんのか、幾らぐらい増やさないけんのかというその辺の根拠を、もっとしっかりつくっていただけたらなというのが今心配事の一つでございます。その辺をちゃんとまとめていただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○末広副委員長　今挙げている資料について議論を進めていければと思うんですが、根拠をどうしていくか。この数年間コロナ禍ということもあり、なかなか研修に行けないとかで執行率が上がらない状況で、足りない根拠を持たせるのは難しいところが正直あるんですけども、コロナ前の執行率は確かに高いので、どういうふうに説明するかというところも踏まえて変えていかなきゃいけないのかなと思います。

それについてこの今読んでいただいた資料も含めて何か御意見があればいただきたいなと思うんですけどいかがでしょうか。

委員長、お願いします。

○寺岡委員長　今日準備していただいた資料のアンケート集計のところでは数が足りてないような気がするんですけど、これ返ってこなかったんですか。

○末広副委員長　委員のメンバー8名分あると思うんですが。

○寺岡委員長　見つけました。

○末広副委員長　小田上委員。

○小田上委員　出してもらったモデルはそれぞれ書いてる人がこの委員の中だから、これ違うんじゃないかっていう話もできるし、これどういう使い方するのっていう話もできるんじゃないのと言ったような気がします。なので、1ページの一番上は僕が出しました。

先ほど、調査研究費と研修費で、調査研究は何か問題意識を持ってこれを研究しようと思って視察に行くやつが調査研究、研修は何かセミナーを受けるものだったりするよねっていう指摘をいただいてそうだなと思いました。なので、2万円では何か遠方に行ったり宿泊を伴うと足りないなっていうところはありますけど、一応感覚としてはそういう調査に行くのに交通費だけで考えてたんで2万円。研修費で24万円としているのは研修1回行くと参加費と交通費とで8万ぐらいかかるので、定例会ごとに行きたいですけど予算決算特別委員会あたりするので行けても3回かなというところで3回分。広報費、会派だよりがときによって違いますけど、2回出せばこのくらいの金額かなと。

広聴費は、意見交換会を前回やったりもして、会場設営とか準備で1万円程度。あとは

資料作成のサブスクと参考図書で、合わせて35万円かなと思います。なので、御指摘いただいていたところを計算すると35万円より超えて、実感として、実際支出の中では35万円を大きく超えてる現状かなと。

○末広副委員長 すみません、私一つ謝罪しなきゃいけないところが1点。7つ目、金額はそのままなんですけど、理由がいろいろ混ざってます、すみません。これ私の転記ミスです。

〔「使途がこれじゃないっていうこと」と呼ぶ者あり〕

○末広副委員長 はい。

小田上委員。

○小田上委員 せっかく出していただいているんで、この中からどうなんだろうっていうところ聞いていけばいいのかなと思うんですが。大体今研修と調査研究等で分けて考えたほうがいいと言ったんですが、セミナーを受けるときは大体3回ぐらいと思っていて、そのプラスアルファぐらいのことを考えてるんですけど、皆さんはどのぐらいの感覚でこの調査研究費と研修費にさかれてるのか教えていただけたらいいかなと。

○末広副委員長 今モデルの話になってるので、このまま金額のお話しさせていただければと思うんですけど、まず、このモデルどういう根拠でつくったか私から説明しないといけないかなと思って。

○小田上委員 モデルって一番最後のやつなんで、モデルは正直最後言ってもらえばいいかなと思います。ほかの人の研修の回数の感覚とかイメージとかっていうのが知りたいです。

○末広副委員長 一人一人御説明していただいたほうがいいですかね。

○小田上委員 明確にこれぐらいという方が聞ければいいかなとは思いますが。

○末広副委員長 じゃあ御説明していただける方、お願いいたします。

細川委員。

○細川委員 2番目の31万円が多分私です。

調査研究費は先進地の視察に行きたいということで、関東方面1回行くと交通費だけで3万円かかりますよね。宿泊費、例えば1泊にしても1万円はかかる、2泊したら5万円になりますので、アンケートは1.5回分ぐらいの計算になってます。絶対1年に1回は行きたいなと。でも、2回ぐらいはできたら行きたいっていうのもあったんで、1.5回という感じで8万円にしました。

次の研修費は、調査で1回、2回行ったらセミナー頑張っても2回、できたら調査がなければ研修はやっぱり3回ぐらいは議会の合間に行きたいなというのはありますが、これは2回で計算しました。あと参加費が例えば1回、2講座を受けて3万円なんで2回行けばそれで6万円。あと旅費も入れたら行って帰ってくるだけで、これも12万少ないんですけど、少なめに考えて12万にしました。

広報費は、会派だよりとかいろいろ出すのにやっぱり1回2万円じゃ足りないんじゃないかなと思ったんで、3人ぐらいの会派でやろうと思ったら、やっぱり1回でも5万円ぐらいかかるかもしれないので5万円にしました。

広聴費は、議会報告会の会場費だけだったら1万円もかかんないと思うんですけど、ほ

かにもいろいろ使うことがあるんで1万円上げました。

資料作成費は、時々パソコンとか高いものもどうしても買わざるを得ないときもありますので、それをならしたら3万ぐらいかなと。資料購入費は大体今までこのぐらいだったなと思って2万円入れました。

以上で31万円ですが、ちょっと自分としては、特に研修とか調査研究費なんかは少なめに考えて出してます。

以上です。

○末広副委員長 ほかに御説明できる方いらっしゃればお願いいたします。

山代委員。

○山代委員 2ページ目の中段、20万9,000円と書いてるのが私の部分になるんですが、これ計算間違いしてるんだと思います。調査研究費と研修費をごっちゃにしてるんですけれども、関東圏の出張1回、関西圏への出張が1回4万、2回で計上してるんですけど、今細川委員が言ったように3回程度はできると思いますんで、そこは多少プラスになるのかなと思います。

広報費の部分も2万と上げて、その横に年2回発行と書いてあるんですが、よく考えたらこれも年2回発行すれば4万になるのかなと。

あとは広聴費の携帯使用料であったり、資料作成費のパソコンとかオフィスの使用料、その他のサブスク、これが年間3万。書籍を購入して資料として見たりするので1万。恐らく総額は25万9,000円になろうかなと思います。この場をお借りして修正をさせていただければと思います。

以上です。

○末広副委員長 委員長、お願いします。

○寺岡委員長 資料は3枚目の上の段だと思います。これが使途が異なるものなので口頭でお話をさせていただくと、調査研究とはほかの委員と同じように、先進地の事例調査で考えさせてもらいました。近隣、遠方ひっくるめて、これまでの経験則で1泊で6万円ぐらいかなと思っています。

研修費がやはり東京・大阪など多いんですが、東京3回行くとしたら初夏と秋と冬、要は定例会の合間に、例えば前の定例会で上がってきた議案であるとか、また予算や決算のこういったものが法律が変わって変化が起きそうといったものを季節ごとに行くと仮定してます。都市部が多いので1回につき10万円で計算しています。私たちも課題が多様化していった、それから目まぐるしく環境変わっているのについていくのに、やっぱり研修は受け続けられないといけないなと今感じています。

広報費は活動報告です。広聴費2,000円が会場費で上げさせてもらってます。一応1回これぐらいかなということで今回上げてます。あとは資料作成と資料購入ですけど、それぞれ、2万と1万で上げてます。

計上してないのが通信費とか、あと例えばPCとか高額なものは私は計上してません。というのが、アンケートで以前書いたんですけど、書いてもどうせ認められないから書かないっていうのが大きな理由です。額超えますからね。

以上です。

○末広副委員長 ほかに御説明できる方いらっしゃれば。

豊川委員、お願いします。

○豊川委員 私3枚目の下の29万5,000円なんですが、すみません、これ全く使途を入れてなくて。使途がちょっとよく自分でもつかめてないっていうのもあったりするんですが、主に調査研究費と研修費に重きを置いたんですが、私自身も常に動き回ってるので、交通費とか宿泊費は必要じゃないかなと思って、調査研究費、研修費を合計20万としました。

広報費は、今考えたらちょっと少ないなと思うんですが、白黒のチラシなら年2回、2万円で安いところ探せばあるのかなと思って、2万円と書かせていただいたんですけど、ここはもうちょっと上げてもいいかなとは今思ってます。

広聴費も会派で議会報告会などをするとき、1つの会場が使用料3,000円とか2時間で800円というところもあったりするので、こちらは2万円でいいかなと思いました。会議費なんか3,000円で収まるのかなと思います。あと資料作成費で、こちらはサブスクやPC購入合わせて5万円あったら収まるのかなと思ったりしています。最終的には29万5,000円、30万円ぐらいで収まるのかなと思いました。

以上です。

○末広副委員長 小出委員ありますか。

○小出委員 2枚目の一番上が私です。調査研究費は2回程度で、1回は会派での参加で、もう1回ぐらいは個人的に視察研修等できるかなと。あと研修費の年2回というのが、近いところから福岡から大阪、東京までであろうかなということで、2回程度の交通費と宿泊費、研修参加費とかを調べて5万円程度かなということで2回です。

あと広報費で、会派の広報を入れてなかったんですが、個人的に1回程度を印刷したものを手配りで配れば印刷費として10万円程度かなと。

広聴費、あるいは要請陳情活動費、会議費はちょっとよめないんですけど、ただ必要があったときには各2万円程度で、予想です。あと資料購入費は大体月5,000円弱ぐらいかなと。専門誌って高いので2、3冊程度、月購入すると大体5万円程度になるのかなと。

人件費、事務費っていうのは私の場合は必要ないので、全体で43万円になります。

○末広副委員長 私は2枚目の一番下ですかね。すみません広聴費のところゼロ円になってますが、これゼロ円のままで大丈夫です。使途が書いてありますけど、削除をお願いします。

基本的に私も研修費、調査費に偏ってる状況で、皆さんのおっしゃるとおり多少少なめに見積もってるところは正直あります。ほとんど皆さんと理由は似たようなもので、基本的には研修2回、調査1回程度で考えてます。資料作成費は、サブスクリプション等が多いのでちょっと多めに入れました。資料購入費には、皆さんと同じように図書ですね。

最後に、モデルのところをお話しするんですけども、基本的に平均や皆さんの理由を見ながらこんぐらいかなっていうのを出していますが、実際研修費2回、これも調査研究費1回、研修費2回程度で考えてます。

広報費も会派でやるか個人でやるかで、また金額変わってくるとは思うんですけども、

アンケートの多いところでこの金額を出ささせていただいて、ゼロ円にしているところはもちろん入れていただいているところもあるんですけども、念のためみたいなのところも多くて。例えば、要請陳情活動費なんかは何入れていいかわからないっていうところもあるので、はっきり答えられないようなところはゼロ円にしてるところは正直あります。

資料作成と資料購入費は平均を出して、合計が大体30万ぐらいに収まるようになってます。結局、一番大きく占めるのは調査研究費と研修費のところなので、広報費もそうなんですけど、回数とかを見る限り2回から3回が多いんですが、どこで落ち着かせるかっていうのはあるんですけども。一応モデルは平均で出して、山代委員から先ほど訂正ありましたけど20万円前後の方が2人、40万円前後の方が2人、あとは30万円前後で、平均としては30万円ぐらいでモデルをつくりました。

小田上委員。

○小田上委員 皆さんからのアンケート見るだけだと分かんなくて、皆さんの意見を聞いて何か安心したというか、よく分かりました。

チーフがつくっていただいているこのモデルも、やっぱり調査研究費と研修費のところ、皆さん今の21万6,000円で、もうほぼほぼここで使っちゃうぐらいの計画は立てたいと考えてますよね。だけど月1万8,000円なので、できる最大限のところができてないっていうのはすごく分かりやすいと思います。なので、調査研究や研修に使っちゃう現状、皆さんがやりたい、行きたいところ、勉強したいことをやっちゃうと残り1万円そこそこしか残らない人ばかりということになると、やっぱり広報活動とか資料作成、資料購入費は自腹になってたりするのか、逆もしかりかなと思いました。

モデルに関してなんですけど、資料購入費1万8,000円は個人的に安過ぎるかなっていう気がします。ここはもうちょっと個人的な意見ですけど、一回本屋さんに行くだけで1万円とか軽く使っちゃうような気がするんで、自分の感覚とはちょっと違うかなと思いました。

○末広副委員長 結構この資料購入費が極端なところがあるのかなと。5万円使う方もいらっしゃるればゼロの方もいらっしゃるんで、それで平均取ると1万8,000円ぐらいになっちゃうところはあるので、そういう意味だと両極端なのかなと思います。

細川委員。

○細川委員 モデルのところなんですけど、これはあれですか30万以下に抑えるという命題問題があってつくられたんですか。

○末広副委員長 基本的にはそういうわけではないです。平均取って、端数捨ててみたいない感じでやってます。それで結果的にこうなりました。

○末広副委員長 細川委員。

○細川委員 さっきの説明では、交通費、調査研究費が大体年に1回程度って言われましたね。研修費はこれ見たら年に2回で考えておられるかなと思うんですけど、これ明らかに講習費1万5,000円の3回分は少ないと思います。今1コマが大体1万5,000円ですから、そうすると2回行くと欲張れば1泊で4コマ受けれるケースもあるんで、そうすると、あんまり現実的でない数字ではないので、もうちょっと増やしていただければと思いました。

○末広副委員長 これも平均の悪いところがあるんですけど、多分山代委員のところちょっと減ってるところは正直あると思うので、ここを訂正していくと平均は上がってくると思います。例えばこれが18万ぐらいだったら違和感ないですかね。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、何か勘違いされると嫌だなと思うのが、1回せっかく交通費を出して政務活動費を使うから、いい講習、セミナーがあるときを選んでタイミングを合わせてその中で効率的に受けようと思うからこそ1回東京や大阪に行ったタイミングで6万、8万かかるんですよね。なので、1回に何でそんなにかかるのって言うと、タイミングを合わせてえりすぐりのこのタイミングで全部何とか効率よくっていうことをやるから高い。プラスやっぱり自治体議員向けのセミナーってどうしても高い傾向にある。ほかの安価なところもあるけど、議員の活動に即して分かりやすく教えてくれるというところのは、2時間で1万5,000円とかですから、そこは市民の人にどう説明するかなっていうのはあるんですけど、効率を求めてやってるのでぐっと高くなるのはあると思います。

○末広副委員長 そこら辺のこの金額になった理由書をまた添付したらいいのかなと思ってます。最初のお願い文とこの金額だけ出してではなく、今いただいた意見をまとめて、金額の根拠をつくれればいいんじゃないかなと思ったりはします。

皆さんの意見を集約して、私がまたベースをつくってきますので、見ていただく形になると思います。今言っていた以外にここの根拠はっていうのがあれば意見をいただければなと思うんですけども。

小出委員。

○小出委員 広報費で多数会派で割って1万5,000円になるんでしょうけど、一人会派は多分1万5,000円では無理なのかなと思います。また会派でなくて個人で広報したい方にとったら、少しこの金額は安いのかなと思います。

○末広副委員長 広報については、正直やり方によって金額の幅がすごい出てくるとは思うので、どこに基準を置かっていうのはなかなか難しいところではあります。確かに一人会派の方の広報を入れると安いのかなと正直私も思います。金額としてじゃあどこで落ち着かせるか、もうちょっとバランス取って見てます。最大限の希望こんだけっていうのを根拠立ててつくって、それを出して判断をお任せするような形になりますかね。

委員長。

○寺岡委員長 モデルはモデルでつくってもいいんだけど、要は審議会が立ち上げてもらった後に全然数字がないと審議会委員の皆さんも何からとっかかっていいか分からないだろうって、それが確かモデルをつくる理由でしたよね。

一応アンカリングでこの数字としてですね、それが始まりでいいんですが、実際に審議をしていただく中で、以前取った議員全体からのアンケートがやっぱり参考にはなるんじゃないかなというふうに思うんですよ。今あったような研修の裏事情とか金額が大きくなっている理由とか書いてる人もいましたんで、あくまで参考資料としてお渡しするか、この後やるんでしょうけども見直し理由案、この中に加えてもいいんじゃないかなと思います。モデルの数字だけ出すと、数字が先走る可能性もあるんで、そのあたりちょっと注意

しないといけんなと思います。

○末広副委員長 先ほど言ったように、私がそこら辺またまとめて文章も作らせていただこうかなと思います。それをまた皆さんで議論していただければなと思うんですけどもいかがですか。

小田上委員。

○小田上委員 今モデルの一番上、調査研究費が6万円、交通費になってるじゃないですか。それをもうちょっと詳しく書いてあげるとかでいいんじゃないかなと思います。

このモデルを作られるときに気をつけていただきたいのが、本当にこれが1人でこなせるものなのかっていうところもしっかり考えていただきたい。めちゃくちゃ研修も行くし広報でめちゃくちゃ配るし、広聴会もめっちゃ開くみたいなのを本当に1人の議員がこんなに実質動けるのか。改選後の委員会の日程見ても、この委員会がないときとかに行動するわけですね。なので、そこもちょっと加味しながら作っていただかないと、その数字そのものが全く意味をなさなくなると思うので、すみませんお願いします。

○末広副委員長 このモデルについては、また私の宿題とさせていただきます。委員長と話し合いながら、もうちょっと詳細に、文章にしる理由にしる、今いただいた話の中で根拠を出せればと思います。

小出委員。

○小出委員 先ほどの広報費で1万5,000円というのは多数会派の意見かなと思いますし、中には広報費100万円と出されてる方もいらっしゃいますので、それがどれだけのものか分かりませんが、1人会派の人を考慮して少なくともこの平均値的な数字であれば、1人会派の人も納得するのかなと思います。

あと、この辺で人件費とか事務所費っていうのは仕方ないにしても、陳情費や会議費、この辺はゼロになっているのが陳情要請聞かない、活動費用を全く予算組んでないでいいのってなるんじゃないかなと思いますので、この辺も何がし数字を入れとったほうがいいんじゃないかなと思うんですが、いかがですかね。

○末広副委員長 結局、金額取りあえず入れとけばいいって話じゃなくて、何に使うかを説明できなきゃいけないので、例えば陳情費で、三原市は陳情を議員も国と一緒に行って、その交通費だったりを計上してる市町もあります。

そうなると交通費、金額結構高くなってくるんですけども、ほかの市町で例えば2、3千円っていう計上はなかなか見ないですね。じゃあ何についてこの金額に根拠を持たせるかっていうところで、理由が説明できないと難しいなところは正直あると思います。

小出委員。

○小出委員 よく分かりますし、自分も経験したことじゃないので全く見当もつかないところを話してるんですけど、ただ予算額と執行額のようなもので、じゃあこの予算として要請陳情費がゼロでいいのかなって思っただけなんですけどね。

○末広副委員長 結局、合計金額でやりくりされてるところでもあると思うので、例えば陳情行くときには研修1回減らすとか。合計ありきの調整になってくるんでなかなか難しいところはあるのかなとは思ったりはするんですけど。

○小出委員 それはよく分かるんですよね。ただ、これをモデルパターンとして結局出すわけですよね。それがもう最初から予算ゼロでいいのかなと思っただけです。

○末広副委員長 細川委員。

○細川委員 私も小出委員に賛成なんですけど、国までっていうのはなかなかないと思うんですけど、例えば県に何かあったときに要望に行くとか、例えば2回ぐらい県庁までの交通費を入れておくとかぐらいはしておいたほうが今後のこともありますよでいいようにも思います。

あと、1人の議員として可能かどうかというあたりなんですけど。私1期目、2期目の暇なときには全部自分で配ってたんですけど、自分で全地域配るのって、やっぱり今現実的じゃないですよ。そうするとどうしてもそういうお金もかかってくるんで、広報費は、1万5,000円でできるっていうのは本当に10人でやるからできるような値段なわけで、もうちょっと上げといてあげないと印刷はできるかもしれないけどあと自分で全部配るよっていうほうが現実的でないと思うんですよね。

だから1回でもいいから配れる、10万ぐらいですよねせめてね。こう考えたらこのぐらい必要ですっていうのをちゃんと根拠を入れて出してみてもいいように思います。

○末広副委員長 今いただいた意見も含めて、またここについては見直しして、理由については私の宿題にさせていただくということで、今いただいたような意見ももっと言うていただいてもいいのかなと思うんですけど、ほかに何かある方いらっしゃいますか。

[発言する者あり]

○末広副委員長 じゃあこちらのモデルについては、私の宿題とさせていただいて、委員長とも相談しながら、また数字をつくらせていただきます。じゃあこのモデルについては以上にさせていただきます。

あともう一つ、文章のほうですね。こちらについてはあくまでお願いする文で、数字の根拠のところはまた別につくることを加味して読んでいただければなと思います。何かあれば御指摘お願いいたします。

小田上委員。

○小田上委員 3段落目の大きく開いてる、議員としての資質向上はのところから、研修やセミナーへの参加とありますが、研修とセミナーって何が違うんだろうと思って、研修等への参加でいいんじゃないかなと思いました。研修と調査に分ける話を今したところもあるんで、調査や研修とかいうのもいいのかなとは思いました。研修とセミナーは一緒かなと。

あとモデルが出来上がったときにどういう方向になったか、しっかり話し合っってこういう方向になったよっていうところを加えればいいんじゃないかなと思いました。

○末広副委員長 ほかに何かあれば。

小田上委員。

○小田上委員 一番下、以上の点からの3行目、このような持続可能な環境の整備はってあるんですけど、議員の活動って政務活動費のことだけで持続可能になるわけじゃないと思うんですよね。なので、一端を担うとは思いますが、この一文なくてもいいのかなと思

いました。

○末広副委員長 今のところについて何かあれば。

このような持続可能な環境の整備は要らないってことですよね。それかもうそれ以降この一文自体を全部消すか。

細川委員。

○細川委員 これらの環境の整備はとかはどうですか。持続可能はちょっと抵抗があるという御意見だったと思うんですけど、私も今思いつきなんで変かもしれませんが。

○末広副委員長 もう2行なくてもいいかなと思いますね。

ほかに何かあればお願いいたします。

山代委員。

○山代委員 一番頭なんですけど、地域のさらなる発展と市民の福祉を向上させることであるんですけど、これ逆のほうがいいような気がします。

○末広副委員長 分かりました、直しておきましょう。

ほかに何かあれば。

豊川委員。

○豊川委員 最後の段なんですけど、つきましては効果的な広報活動と資質向上の機会を確保しの間でもいいと思うんですけど、議員の成り手不足解消のためとか入れとってもいいんじゃないかなと思いました。

○末広副委員長 将来の議会議員たちにとって不足してますかね。

○豊川委員 そうですね、成り手不足解消のためっていうことも入れといたほうがいいのではないかなと思います。

○末広副委員長 今のについて何かありますか。

小田上委員。

○小田上委員 豊川委員が言われてることは皆さんそうだと思うてるし、その方向で将来の議員の文言を入れてると思うんですね。現在だけでなく将来の成り手不足とか、そういうところで触れてあげたほうがいいのかと思いました。

だから、最後はシンプルにしといて、でも豊川委員の言われることも入れ込むであれば上の段かなと思いました。

○末広副委員長 2行目、以上の点からのところで、現在だけでなく将来議員として活動する方々がより効果的についでいうところにそのニュアンスも含んでないこともないとは思いますが。

細川委員。

○細川委員 おっしゃるように、成り手不足の解消というのの流れの中にはあるんですけども、その文言をここに入れちゃうと、成り手不足解消のために出してきたかと。もっと成り手不足の対応をするためにはいろんなことがあるわけですよね。今やってる心得とかパネル班で出したりテレビ流したりとか、それは全部成り手不足何とかしようっていうことの流れでやってるのに、この中にその文言が入ると、成り手不足解消のために議会が考えたのは、これが決め手かと受け止められるかなと。それちょっと違うんじゃないのと思う

んで、むしろこの将来議員として活動する方のためについていうやんわりとした感じのほう
が、私はいいとは思いますが。せっかく御提案いただいたんですけど。

○末広副委員長 私もそのニュアンスを含んでこの文章をつくってるところもあるので、
はっきり言葉にすると細川委員のおっしゃったようなニュアンスも含んじゃうんじゃない
かなってところで、このままにさせていただけたらと思います。

大丈夫ですか、豊川委員。

○豊川委員 大丈夫です。

○末広副委員長 ありがとうございます。

山代委員。

○山代委員 ２段目の議員としての資質向上はのところの後半部分、十分な機会を得られな
いのが現状ですではなくて、十分な機会を得られていないのが現状ですではないかなと思
います。

○末広副委員長 得られていないのほうで、現状をよく表しているんじゃないかなと思いま
す。

委員長。

○寺岡委員長 真ん中あたり、インターネットが続いとるんで、２つ目は通信環境って置き
換えれるんなら置き換えたほうがいいかなと思いました。

○末広副委員長 問題ないと思います。

議長、何かこれについて、出していただくのが議長になるので何かありますか。

○北地議長 任せます。

○末広副委員長 ありがとうございます。

小出委員。

○小出委員 最後の３行が、報酬審議会上げるためのまとめの文章だと思うんですけど、結
局この議員活動と、あとは議員の資質向上とその環境づくりのためについていうことですが、
活動の部分が広報活動に限定されてるんで、広報もあれば広聴もあると思うので、広
報広聴活動。くどいようであれば議員活動でひっくるめてもいいかもしれないと思うん
ですが。

○末広副委員長 議員活動にするとその後ろも多分含んじゃうと思うんで、広報広聴活動で
いいんじゃないかなと思います。

細川委員。

○細川委員 今の流れですけどね、資質向上の機会を確保し将来の議会議員ってありますが、
議会っていますか。

○末広副委員長 ここ点入れたほうがよかったですかね、議会・議員のため。

○細川委員 いや、議員でいいんじゃないんですか。

○末広副委員長 議員でいいですか。

山代委員。

○山代委員 それを言うんなら、くくりで大竹市議会議員にしたほうがいい気がしますよね。
自分のところなので。

○末広副委員長　じゃあ将来の大竹市議会議員に直させていただいてよろしいですかね。

じゃあ以上にさせていただこうと思います。また訂正したものを次に出させていただこうと思います。私の宿題が2つですね、これの訂正と、あとはモデルの金額とあと理由ですね。もうちょっと肉づけしてまた皆さんに御提示できればと思いますので、こちらについてもあと2回ぐらいですかね多分。じゃあ今日のところはこれで終わらせていただこうと思います。

○寺岡委員長　末広副委員長、どうもありがとうございました。最後おっしゃってくださったように、あと大体2回ぐらいというところですかね。

それではですね、日程としては先ほどで終わったんですが、今日の日付で活動計画③をつくったんですが、情報の送受信にしてもあと2回程度ということですし、私が進行させていただいてる心構えについても一度会派にお持ち帰りいただく、ほかの議員の意見を伺ってみる、様子を伺ってみるということで若干時間がかかりそうです。今後、新しいテーマと、あと活動効果の確認などありますが、ひと月ずらそうかなと思います。あとは全体調整しながらまとめていこうかと思います。これまでの調査の中で先進地見学、それこそ調査してみたいというところがあればまた委員長にお伝えいただければと思います。

では、前回ちょっと置いておいたんですが、政務活動費については、前回の会議でどこかで蹴られた場合という話をしました。

委員会から議長をお願いをして議会運営委員会で諮られるかどうか分かりませんが、議長が市に報酬審議会を開いていただくようお願いをして審議があつて、結論が出ていくという流れですが、NGになった場合もそれを議会としてよしとするかどうかという覚悟をまだ皆さん方から伺っていません。

駄目だった場合も、要は条例を改正したらできるんですよ。よくあるのは、何々審議会の意見を尊重する程度にとどめているのはよく聞きます。報酬審議会に基本的に従うでいいのか、どのあたりの心持ちで今いらっしゃるかなというのは確認しておきたいんですよね。

細川委員。

○細川委員　例えば報酬審議会が1回決定出しますよね。それ再議のお願いとかいうのは、できないですか。うちとしたらこことここはちょっと受入れ難いけども、そこについても一度検討いただけないかっていうのは制度としてできないということですかね。

○寺岡委員長　すみません、私は適当に答えるわけいかんで、何か事務局御存じですか。局長。

○山田議会事務局長　はっきり調べてはいませんが、基本あまり想定はされていないんだろうと思います。中身や出てくる理由書が変わるということであればあるのかもしれませんが、同じ内容でもう一度やっても基本的には同じ結果が出るものなんだろうと思ってます。

○寺岡委員長　小田上委員。

○小田上委員　報酬審議会の審査の中で駄目だってなったら、議員の感覚と報酬審議会の構成メンバーにもよりますけど、一般市民の感覚的にやっぱり無理だよって話なんだと思うんですよ。なので、報酬審議会駄目って言われたのを上げるほどじゃないんじゃないか

など思ってます。報酬審議会でNGが出ればもう諦めるというくらいで、僕はいいんじゃないかなと思ってます。

○寺岡委員長 末広副委員長が今手挙げられましたが。

○末広副委員長 少し話が戻るかもしれないんですけど、金額もやっぱり心理面で関わってくるんじゃないかなってところは正直あると思います。できるだけ希望額を乗せて、例えば40万、50万では無理だけど30万ならいけるよみたいなのところもあると思うんですけど、ここら辺どう考えるかってところに話が戻っちゃうんですよね。現実のところを攻めるのか、理想を攻めるのかってところでまた心理的にも変わってくると思うので難しいかなと思ったりはします。

報酬審議会で審議していただくにも、金額のところはやっぱり議論になると思うんで、いきなり50万、60万欲しいよっていうのと30万ぐらいで何とかっていうのとでは、考え方も違ってくるんで、そこら辺どう考えるかだと思います。

○寺岡委員長 そこはチーフとして、一定の考えを持っとってもらえたらいいです。

モデルを次回示してくれますよね。

○末広副委員長 はい。

○寺岡委員長 それを説明してくれればいいと思います。

○末広副委員長 分かりました。それでじゃあつくらせていただきます。

○寺岡委員長 それでちょっと違うんじゃないってあれば、また次回意見交換すればいいと思います。

○末広副委員長 じゃあそれで次の宿題にさせていただきます。

○寺岡委員長 いろんなことを想定しておきたいんだけど、30万円ぐらいのモデルを出すとして、いやもっと働け100万だよと言われたとき、いやいや、そんなに預かれませんかよとするか、それは尊重しますか。

小田上委員。

○小田上委員 100万にいくに値する根拠を出せてないので駄目だと思いますね。

○寺岡委員長 我々が報酬審議会を認めないということ。

○小田上委員 100万って言われても、自分たちの想定でこれだけは必要ですと言ってるものに関してまでしか、いっぱいもらえるらしいぞ、じゃあもらっとこうみたいな感じには受け止められると思うんですよ。幅が広がって活動ができるっていう思いがあったとしても、思ったよりもらえるね、使えるね、ラッキーって思われるんじゃないかなと思うんで、自分たちで根拠出した数字より上ってことはないんじゃないですか。

○寺岡委員長 いいですか、今のは皆さん。

細川委員どうぞ。

○細川委員 少ないときにはね市民の方がそれしか認めてくれないんだから認めざるを得ないでね、もっと多く言ったときには市民の皆さんがそれだけ期待しているのに、それは認められないっていうのは、論理矛盾だと思いますよ。

やっぱりそれだけ働けと言っていたら、議会としては議員としたら一生懸命働けど、でも政務活動費いうのは絶対全額出さなきゃいけないわけじゃないですから、それ

はできる範囲の中で補助を出していただくっていう考え方で、もし小田上委員の言うとおりに尊重するのであれば、高いのが出てきたときにはありがとうございますで、高く設定しておけばいいと思いますけど。

○寺岡委員長 小田上委員。

○小田上委員 すみません、100万なんて出るわけねえだろうと思って言ってます。上げるにしても、自分たちで使えそうな金額の根拠がないというのは、自分たちが条例出すときちゃんともんでかんといかんと思います。こんだけしか使えんだろうなっていう想定で、例え話で、30万円と言って、いや50万円でもそれだけ活動ができるんだったら使ってもいいと。だったら広報費にもっと充てようってなるのが、あんまりいい考えではないんじゃないかなと思います。じゃあ今、しっかり50万円とか大きい金額を出してないのはどうなのとなるかなと。

今21万6,000円が幾らまでならオーケーとか、答申で出してもらってるここまでは無理だけど、ただ少し上げることは世の中的にしょうがないよねみたいな、どんな文章が返ってくるかも分からない中で難しいなと思いますけど、上げちゃ駄目って言われたらもう上げちゃ駄目なんですよ。上げていいよって言われたときに、自分たちがこれだけの根拠を示したものの以上に上げることは駄目だと思います。

○寺岡委員長 ほかにも意見あったら聞きたいんですが、今日久しぶりに特別委員会設置の決議の話が出ました。改めて見直してですね、本質的な議論を通じて調査研究というところですよ。やっぱりこうやっていろいろなことを想定しながら一人一人の議会とは何ぞや、議員とは何ぞやっていうのを確認しながら進めたらいいかなと思います。

ですから今もまるであり得ないような話を出させていただいて、皆さんには失礼だったかもしれませんが、でもそういう本質的なところをこれからも意見交換していければいいかなと思いますので、お付き合いいただいてありがとうございます。

では次回会議、あと2回程度という話も出てます。政務活動については別日でやっていただいても構いませんが、さあどうしましょう。全体に確認するためには早くしたいのもあるでしょうし、準備のためにちょっと時間がほしいというのもあるでしょうし、どうしましょう。

4月中旬に2回やっておきたいんですが。

[発言する者あり]

○寺岡委員長 では、4月11日木曜日の10時からをまず予定しましょう。恐らくこの3つのテーマが最後となるのが、25日か26日あたりどうでしょう。

[「25がいいです」と呼ぶ者あり]

○寺岡委員長 特になければ25日にしますが、よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○寺岡委員長 4月25日木曜の10時から。ちょうど2週間おきずつになっていい感じですね。じゃあそのようにいたしますので、それぞれ準備をお願いしたいと思います。

何かとお忙しいとは思いますが、引き続き御協力をお願いしたいのと、次のテーマ、まずはこれまで上がってきているものの中から選んでいければいいかなと思います。9月、

10月の時点で皆さんからいろいろ御意見いただきました。優先順位を決めて、それ以外残ったものがありますので、まずはそこを注目かなと思います。付議事項などとにらめっこしながら、大竹市に何が必要か、また皆さん方からお知恵をお借りしていきたいと思えます。

では以上で今日の会議は閉会します。お疲れさまでした。

14時18分 閉会